

日本進化学会福岡大会報告

参加者 850 名をこえる！

進化学会福岡大会は、おかげさまで、好評のうちに終了することができました。参加者数は、事前登録が約 620 名 (返金分をのぞく)、当日参加が 150 名、スタッフ参加 (会場係などの学生・ポスドク) が約 50 名。これらを合計すると、受付で名前を把握できた参加者総数は約 820 名でした。このほか、公開プログラムの「進化生物学夏の学校」、および進化教育のセッションには、登録者以外の方がかなり参加されていたので、控えめにみても 850 名の参加者があり、昨年(2019)の東京大会 (登録参加者 622 名) をうわまわりました。国際シンポ招待講演者の John Endler 博士によれば、Evolution を発刊している The Society for the Study of Evolution は、会員数が約 3000 名ですが、大会への参加者は例年 700 名程度だそうです。日本進化学会の大会は、5 回目で、北米圏の大会の規模をこえたこととなります。

人気を集めた企画

各企画の参加者数は、表 (注: 添付したエクセルファイル) のとおりです。ピークは 2 日の 3 コマ目で、概算の合計で 586 名の参加者が企画会場にいました。3 日の 3 コマ目でも、462 名がいました。3 日の 4 コマ目は、さすがに疲れて帰った人が多く、250 名でした。大入り満員の「夏の学校」以外では、参加者数が多かったのは、[2C1] 発生進化、[2D2] 人間行動、[2D3] 種分化生態 (120 名でトップ)、[3B2] 病原細菌、[3A3] 非生命体進化、の 5 企画でした。かなりジャンルの違う企画が集客力を発揮したのは、好ましい傾向だと思います。分野間交流の良い機会となったものと思います。口頭発表にあたる、進化学一般 (1)(2) が、それぞれ 75 名、80 名の参加者を集めたのは、たいへん良かったと思います。いろいろな企画が平行して走っていても、一般講演に十分な集客力があるのは、学会の活力を反映していると思います。

PC 発表支援体制

今回の大会では、ほとんどの発表がパソコンで行われました。接続トラブルへの対策として、会議業者に委託し、PC 接続用のコンバータなどの機器をレンタルし、オペレーター 2 名、ディレクター、アシスタント計 4 名の体制をとりました。私が担当した進化学一般 (1)(2) では、各 8 名の講演者が 15 分ごとに入れ替わりましたが、コンバータのおかげで時間のロスなく次の講演に移る事ができました。試写段階で、パソコンから

映像が出力されないトラブルがありました。オペレータを電話で呼んで、対応してもらい、事なきを得ました。このように体制をとっても、一部の会場では、トラブルがありました。今後改善すべき点に気づかれた方は、ぜひ矢原までご連絡ください。

来年東京で！

日本進化学会 2004年大会は、東京大学駒場キャンパスで開催されます。来年駒場でお会いしましょう。

謝辞

日本進化学会 2003年福岡大会開催に際しましては、下記の企業、団体より多大なご援助とご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

日本進化学会 2003年福岡大会委員長 矢原 徹一

富士通
味の素株式会社
文一総合出版
共立出版
裳華房
チュラルテック株式会社
正晃株式会社
地人書館
東海大学出版会
株式会社クバプロ
九州大学生協同組合

日本進化学会 2003年福岡大会ベストポスター賞

ベストポスター賞については、13名の審査員による審査の結果、次の11件に決定しました。受賞者には賞状が送られます。

添付ファイル参照